

地域団体との意見交換会の概要（農業分野）

【農業分野】地域団体との意見交換会の概要について

区分	実施日	地域団体等（参加人数）		
		農業協同組合等	農村女性リーダー・青年 農業者・指導農業者・集 落営農組織・畜産団体等	計
①安芸地域	H27.7.28	7	4	11
②物部川地域	H27.7.22	13	4	17
③嶺北地域	H27.7.29	4	6	10
④高知市・土佐市地域	H27.7.23	10	4	14
⑤仁淀川地域（土佐市以外）	H27.7.23	9	4	13
⑥高幡地域	H27.7.27	13	5	18
⑦幡多地域	H27.8.4	8	4	12
計		64	31	95

【地域の現状と課題の確認】

- 高齢化の進行による、農家戸数の減少、後継者不足。
- 遊休農地や、所有者不明の農地の増加が懸念される。
- 米や茶の価格低下による、農業経営の悪化。

【現在の県産業振興計画の評価及び次のステージに向けた意見】

■柱1. 本県農産物の高付加価値化

（1）まとまりのある園芸産地総合支援

＜学び教えあう場＞

- まとまりのある産地づくりについては前向きに取り組んできた。学び教えあう場は成果が出ている。
＜⑥、⑦＞
- 同一品目でも農家による収量格差があることから、この解消が必要＜②＞

＜ハウス整備＞

- ハウス整備事業を活用させてもらっている。＜全地域＞
- 資材高騰、環境制御機器など付帯設備を導入すると経費が高くなる。補助上限額等の見直しを検討してほしい。＜①、④～⑦＞

＜環境制御技術の普及＞

- 環境制御技術導入加速化事業はありがたい。＜①＞
- 面積減による減があるが、環境制御による収量アップで何とか出荷量を現状維持しており、環境制御については期待をしている。＜①＞
- 技術が確立されていないものもある。事業を延長すると共に、導入出来る機材の拡大も検討してほしい。＜④＞

[次のステージに向けた意見]

- 環境制御技術導入加速化で収量増が課題である。責任産地として役割を果たしていく。技術支援をお願いしたい。〈⑥〉
- 天候に左右されず、収量が確保できるような技術を開発・普及させて欲しい。〈④〉

<ナス（土佐鷹）>

- 土佐鷹を普及推進したが、燃料、肥料の高騰等のマイナスの要因がでてきたので、目標は達成できなかった。〈①〉
- 土佐鷹は消費者が求める品種であり欲しいという人もいるので、引き続き推進していきたい。〈①〉

<ユズ>

- ユズ加工品の有利販売のため搾汁施設の高度化により取引先との安定的な販売につながった。〈⑦〉

(2) 環境保全型農業のトップランナーの地位を確立

- 土着天敵の利用、他地域との天敵のリレーにより、IPM技術の普及が進んだ。〈②、④、⑦〉
- 天敵導入率が向上していない要因の一つとして、農家の高齢化がある。〈②〉

(3) 流通・販売の支援強化

- 県外のパートナー量販店での高知フェア等で、特に土佐文旦で好感触を得ることが出来、有意義であった。〈④〉

【次のステージに向けた意見】

- 販売拡大を図っていくための積極的な消費宣伝についての県の支援と、販売する人材育成のソフト支援などをお願いしたい。〈②、③、④〉
- こだわり野菜に取り組む人はたくさん出てくると思われる。県のシンガポール事務所もあるので輸出も視野に入れて展開してはどうか。〈②〉
- 米価が下がった中で、野菜への転換が進み国内流通が飽和状態になることが想定される。今後は、輸出についても考えていく必要があるので情報提供をお願いする。〈⑦〉

■柱2. 中山間地域の農業・農村を支える仕組みを強化

(1) 品目別総合戦略（米・茶・畜産）

<米>

- 米価下落で、稲作農家を取り巻く環境は厳しい状況になっている。〈全地域〉

[次のステージに向けた意見]

- 平地で作りやすい酒米品種の開発。コシヒカリに代わる早生でブランド化が図れる優良品種を開発してほしい。〈②、④〉
- 飼料用米は、いつまで補助があるか不透明。米が全国的にダメになると園芸品目への転換が進み、国内産地の競争が激しくなる。野菜や果樹などでお金の取れる農業に誘導できる仕組みが必要。〈③、⑦〉

<茶>

- お茶の価格低迷が問題。高付加価値化に取り組む必要がある。<⑤>

[次のステージに向けた意見]

- 茶はし好品。他産地の茶を飲んでいる方を高知の茶に乗り換えてもらわないといけない。<⑤>

- 後継者のいる事業者は特に技術研修が必要。20~30歳代を育てることを考えないといけない。

<⑤>

<畜産>

- TPP 対応が必要。支援に感謝している。一体となった取り組みの重要性を再認識した。<⑥>

- 畜産の課題として、生産者の資金繰りがある。<③>

- 仔牛価格高騰により肥育農家が潰れる心配がある。<⑥>

[次のステージに向けた意見]

- 移転・規模拡大するには用地確保が困難。米豚、WCS、畜産団地化などに取り組む<⑥>

- 和牛の輸出の方向についても考えてはどうか。<⑥>

(2) 集落営農の推進

- 産振計画により集落営農組織が進んだ。<⑤>

- 米価が安くなっている中、平坦地では集落営農の推進が必要。<④>

[次のステージに向けた意見]

- 集落営農については、必要不可欠。高度化、法人化を行い地域で頼られる組織が必要。<⑥>

- 法人化すると経営感覚が大事になる。今後、運営上のアドバイス、コーディネートを望む。

<⑥>

- 人材育成への支援をお願いしたい。自分の地域は自分で守っていくという意識改革が必要。動機付けに力を入れ、人材育成に力を入れてほしい。<⑦>

(3) 6次産業化・加工

[次のステージに向けた意見]

- 6次産業化は出口が必要。加工品は競争が激しく、一商品だけでは売りにくい。県が県下の商品をまとめて、セットで売る方策を考えて欲しい。<④>

- 加工したものを県外へどのようにして出荷するかが大きな問題<①>

- 商品が出来ても、商標登録やパッチテストに費用が掛かる。商品開発に手助けをしていただければありがたい<①>

- 今後、トマトの生産面積の拡大に伴い、下級品、外品等の増加も予想されるため、下級品の販売に、産地を代表できる高付加価値の6次産業の展開など新たな提案が必要<⑤>

- 加工用は年間通じた必要量があり、余った時だけという訳にはいかない。天候に負けない出荷量を確保するため、地道な営農、普及をして欲しい。<④>

(4) 中山間に適した農産物等の生産（薬用作物）

- 薬用作物の導入、面積拡大を行い耕作放棄地対策とあわせて一定の成果をあげている。<⑤、⑦>

- 新たな有望品目の導入による取り組みが課題<⑦>

■柱3. 新たな担い手の確保・育成と経営体の強化

(1) 担い手の確保・育成

<新規就農者>

- I・Uターンなどによる新規就農者の確保が進んできた実感がある。<②>
- 新規就農者に貸す農地や、ハウスを構えることが難しい。<②、③、④>
- 新規就農には一定の資金が必要であり、そこがネック。また、補助金等の支援でハウス等を設置するが、問題はその後の経営で長くできるかが難しい。<②、③、⑦>
- 新規就農者の定住に向け、住むところの魅力ある情報提供と支援が必要。夫婦あるいは子供連れでは、軌道に乗るまでが大変。その部分の支援が要る。<④>
- 現にいる農家の後継者の支援や、農家の子どもが農業を目指すような取り組みも必要。<②、⑦>

<人材育成>

- 農業担い手育成センターには、研修生に対して地域に溶け込んで暮らしていくことをしっかり伝えて欲しい<④>
- 新たに農業参入する人は、助け合いの精神を学ぶ機会が少ない。<⑦>
- 土づくりから作の終了までのトータルした指導が出来る仕組みを考えてもらいたい。<⑦>
- 設備投資を控えた基本技術の向上を進めてもらいたい。<⑦>

<作業員の確保>

- 集落営農組織が主体となって地域の営農を維持しているが作業員の確保が難しい状況。<②、③>
- ニラは、面積拡大と施設化の方向であるが、そぐり手が少なく、取り合いになっている。<⑤>

[次のステージに向けた意見]

- 慢性的な労働力不足。外国人研修生の活用等労働力確保ができるシステムを構築してほしい。

<⑦>

(2) 経営体の強化

- 規模拡大農家だけでなく、小規模な農家も併せて、両方とも維持していく必要がある。<②>
- 家族経営では反収アップに精一杯で、規模拡大したくても人が雇えない。<⑥>

[次のステージに向けた意見]

- ユズなど植えたのに収穫できない状態がある。法人化も必要であり、法人化への支援、助言をお願いしたい。<⑥>
- 零細農家の生き残りは更に難しい状況になる。法人経営、地域の大規模経営農家が中心となって生き残っていけるシステムを作っていく必要がある。<③>

(3) 農地集積

- 各市町村や小さい地域で考えないといけない。<①>
- 中山間地域では、立地条件が悪いため、作業効率が悪く集積・集約が出来ていない。<③>
- 残すべき農地と残すのが困難な所とのさび分けが必要な段階にある。<③、④>
- 農地中間管理事業は、不在地主も含めて、地主への周知が必要。<④>

【その他、次のステージに向けた意見】

- 還元野菜で、付加価値を付けて消費者を呼び寄せることに取り組むので支援をお願いしたい。〈②〉
- 機能性表示野菜や地場産品の発掘にも取り組んでいきたい。〈②〉
- マイクロバブル等の新技術の農業分野への活用と早期普及。〈⑦〉
- 南海トラフ大地震に備えた、集出荷施設の移転・集約に係わる支援〈①、⑦〉
- 輸出をターゲットにした高品質農産物生産技術の強化と、安定的に輸出が継続できるアドバイザーの設置。〈⑦〉
- 出資法人を交えて建設事業もやりながら、担い手の育成と基盤の強化を図る考え方で地域の農業と協働で頑張っていきたい。〈①〉
- 県の支援策が利用者側にきちんと伝わっていない。もっと周知が必要。〈②、④〉